

【日時】2020年12月18日(金)17:00~19:00

【登壇者】(☆…進行・ファシリテーター)

- ・稲福政志(琉球大学法文学部学生)
- ・照屋綺恵(沖縄県立芸術大学音楽学部学生)
- ・Lynn Miyahira(ハワイ沖縄連合会会長)
- ・宮良みゆき(久米島博物館主任学芸員)
- ・桃原薫(多良間村教育委員会文化財担当)

☆いのうえちず(NPO法人首里まちづくり研究会副理事長)

### 【座談会概要】

#### 1. 首里城火災で、あなたやあなたの身近な人々が感じたこととは？

- 首里で生まれ育ち、首里城は生まれたときから側にあったので、正直なところ火災までは何か特別な思いがあったわけではない。しかし、火災があった日は一日中ぼーっとしてしまった。しかし、その日の大学の友人や先生の反応は「燃えちゃいましたね」という感じで、温度差を感じた。火災後は、SNSなどで普段はそんなことを言わない人も首里城について投稿しているのを見て、みんな思いがあったのだなと感じた。(稲福)
- 私は読谷村出身で大学進学のために首里に移ったので、首里城は身近なものというよりも観光客と同じ気持ちだったと思う。大学のキャンパスからきれいな景色が見えて、こんなところで学べるなんてすごい、という気持ちだった。特別な場所なのだろうという感覚はあるが、それがどう特別かは火災後に感じるようになったと思う。無くなってしまっただけから気づくことが多く、何故もっと足を運ばなかったのかと感じている。一方で、読谷村に帰るとどこか他人事のように感じている人が多く、毎日見ている人と、観光地の首里城と捉えている人では、温度差があると感じた。(照屋)
- 首里城火災のニュースを見て、すごくショックを受けた。ハワイの沖縄県系人は、首里城へ行ったことがある人も多い。行ったことがない人でも、首里城のイメージはハワイオキナワンフェスティバルや首里城の舞台幕などでも目にする機会が多く、みんなショックを受けた。琉球王国のシンボルが燃えていると心が痛んだ。ショックを受けただけではなく、何ができるかなと考えて、ハワイ沖縄連合会の専務理事が火災直後からオンライン募金を始めてくれた。ハワイの県系人にとって首里城は、観光で沖縄を訪れたときには行く場所で、琉球王国のシンボルであり、沖縄の美しさやユニークさのシンボルである。(Lynn)
- 久米島の人にとっても、首里城火災は衝撃的な出来事だった。島内小学校の修学旅行先にも首里城が入っていて、今年行く予定だった子たちから残念がる声があった。子どもたちだけではなく、みんな心を痛めていた。私も県立芸大出身で、第1キャンパスで一般教養の授業を受けた後、首里城公園を横切って、専攻の教室がある第3キャンパスへ移動していた。こんなに美しい城の側にある大学に通えて、自分はなんて幸せなのだろうと感じていた。(宮良)
- 火災の様子は、テレビで家族と見ていた。中学3年生の息子が、食い入るように映像を見ていた。彼は2年生のときにキャリア教育で首里城を訪れたので、自分が行った場所が燃えているとショックを受けたようだ。大人たちも立ち話の話題が、首里城が燃えたこと、なぜ燃えたのか、今後どうするのかなどで、多良間島の人々は首里城火災を自分たちのことのように感じている人が多かったように思う。ちなみに私は宮古島出身なので火災後に

実家に連絡したが、「首里城火災？ニュースで見たかな・・・」という感じだった。首里城の近くに住んでいた経験を持つ母はショックを受けたようだったが、隣近所で話題にのぼるということはないようだった。(桃原)

## 2. 首里城を軸にした琉球文化の再認識について

- 大学では琉球芸能専攻に所属している。首里城で使者をもてなすために発展した音楽が古典音楽や組踊であり、首里城があるからこそ残ってきたもので、音楽があるから首里城が残っているというふうにつながると思う。どちらが欠けてもダメなのが琉球芸能なのだ、と、大学で文化や歴史を学ぶうちにそう考えるようになった。古典芸能に携わる人は少ないのだから、自分たちが自覚を持って残していかなくはいけない重要なものと感じている。首里城火災後は、どうしてもあの場所で演じたいと感じた人が多いと思う。他の場所で演じるときも気持ちの持ち方は同じだが、首里城はかつて実際に芸能が演じられていた場所で、原点だと感じている。私は初めて首里に来たときは「空気が違う」と感じた、それは特別な場所だからなのかな、と思う。(照屋)
- 久米島紬は、かつては税のひとつとして首里に納められていた貢納布だった。役人を除く全ての女性に税が課せられており、各集落のムラヤーで織られていた。とても重い税で圧政ともいわれるが、一方で厳しかったことから技術が磨かれ発展したともいわれる。明治になって御用布は無くなったが、その技術は脈々と受け継がれ、現在につながっている。久米島の人たちは、重い税があったことは知りつつも、現在は首里城に対して悪いイメージを持っているわけではないと感じる。どちらかといえば、首里城に納めていたことを誇らしく感じているのではないかと。先人のおかげで技術が磨かれ現在につながっていることに感謝している。(宮良)
- 「八月踊り」は国指定重要無形民族文化財で、正式には「多良間の豊年祭」という。首里への納税が無事に済んだお祝いと来年の豊作を祈るものである。元々は雑踊だったが、近代に入って組踊の要素などが加わった。3日間、朝10時から夜9時頃まで演じられるもので、古典踊り、狂言、組踊があり、その間に踊りが入る。多良間島にしか継承されていない組踊などもあり、島民にとって八月踊りは島独特のものであるという自負がある。島の子どもたちも大人も当たり前に参加するもので、かつて首里で演じられていたものを、いま多良間島で自分が演じている、身近なものとして感じているのではないかと。また、八月踊りは国指定の無形民俗文化財としては県内で最初に指定されたことも、島民は誇りに感じている。(桃原)
- ハワイでも、空手、歌三線、舞踊など芸能が盛んである。ハワイのオキナワンフェスティバルは5万人くらい来場者がいて、ハワイコンベンションセンターで開催したこともある。舞台の背景幕に首里城が描かれているので、ハワイのウチナンチュはみんな首里城のことを認識している。ハワイにはフィリピンやチャイニーズなど様々なコミュニティがあるが、そのなかで沖縄県系人として沖縄の文化を誇りに感じている。ハワイで芸能に関わっている人には、県立芸大で芸能を学んだ人が多く、みんな首里城のことはとても大好きで誇りに思っている。やはり特別な場所である。今年は新型コロナウイルスの影響により実際のフェスティバルは開催できなかったが、バーチャルミーティングを実行した。また、沖縄県系人が営業する飲食店の経営が厳しいところ、コミュニティの若者がSNSなどを活用し、イベント開催をして情報発信するなど、互いに助け合っている。(Lynn)
- ガイドという名で活動しているが、同世代の人と首里城を歩き、これどうしてだろうと話をしたり、一緒に気づいたりということが中心になっている。説明するというより一緒に探検するというイメージである。首里城の火災は悲しい出来事だが、火災をきっかけに首里出身の友人と一緒に首里城に行ってみようということになるなど、同世代と話すきっかけ

けになっている。首里城だけでなく首里のまちも含めて歩くと楽しい発見が沢山ある。火災後は県内の人を案内することが増えた。首里城を初めて訪れた、燃える前の首里城を見ていないという人もいる。そういう人は、最初から首里城に思い入れがあるわけではないが、燃えた首里城を見ると何か感じるものがあるようだ。自分にとっても、首里城が燃えて悲しい、全然足を運んでいなくて悔しいという気持ちがあるが、何が悲しいのかわからない。わからないが何かしたい。最初から首里城がシンボルや象徴だったわけではないと思うが、失って悲しかったということは、自分にとって大切な場所だったのだと思う。たくさん足を運んで、色んな人と一緒に首里城とは何だったのだろうということを見つけていきたい。(稲福)

- 島の子どもたちにとって芸能に携わることは当たり前。子どもたちの多くが高校進学で沖縄本島へ行くが、本島では芸能に携わる機会がなかった子たちもいる。島を出た子たちにとって、多良間島で芸能に携わっていたことが誇りや自信になっており、萎縮することなく生活できているようだ。島の子どもたちにとって首里城は修学旅行で行く場所で、県外に進学した子からすると沖縄のシンボルとして話題になることもあるかもしれない。そういったなかで、アイデンティティを改めて振り返ったときに、島で芸能文化に触れていたことが特別なことだったと気づく。文化的な島だったと感じてもらいたい。(桃原)
- 君南風（チンペー）の祭祀は年に2回あり、六月ウマチーは最大の行事である。現在は12代目の君南風が祭祀を司っている。久米島の人々にとって君南風は、土地に染み付き脈々と受け継がれているものであり、その祭祀はやらなくてはいけない、やって当たり前のものという認識である。久米島のシンボルが君南風で、久米島の精神性の象徴である。島の人々の、大切にしていきたい、絶やしてはいけないという気持ちで守られている行事である。(宮良)
- ハワイのウチナーンチュは、沖縄のアイデンティティが強い。ハワイは120年前から様々な民族が入植してきたところなので、そのなかで生きる人は、自分は何が特別か、自分のヘリテージは何かをみんな考える。なので、沖縄への思いは強い。離れているからこそ沖縄を強く感じるのであり、ハワイだけでなく世界中のウチナーンチュが感じていることだと思う。沖縄のコミュニティでは互いに助け合うというフィーリングが強い。それは何世代も前から続いている。ユイマールの気持ちがアイデンティティの大きな要素となっている。(Lynn)

### 3. 「首里城復興」とは、どういうことか？今後期待したいこととは？

- 自分や周りの人にとっては、首里城は生まれたときからあるし、海外や県外に出たわけでもないのに離島や海外移民のような視線もなく、首里城は本当に当たり前のもので、だからこそ大切に気づけないのではないかと最近そう感じている。首里城復興は確かに盛り上がっているが、実は自分の周りではそんなに盛り上がっていない。せっかく復興するのだから、一部の人だけでなくみんなが新しい首里城を見て「よかったね」と言えるために、首里城がなくなって悲しかったけど何なのかわからないというような世代や人々を置いてきぼりにしないでほしい。色んな人たちが、色んなきっかけで、考えられる場や雰囲気沖縄県全体、世界中で広がっていくとよい。(稲福)
- 首里城に関わる活動をしている人とそうでない人で、復興について温度差がある。友人と話していても、「大切だとは思いますが他人事」という人も少なくない。関心を持っている人は持っているし、無関心の人は無関心。もっとみんな考えて再建できる首里城だとよい。観光地というイメージが強いが、本当に観光地なのか、観光地としてあるべきなのか、歴史的価値をもっと県民に知ってもらうことで本当の意味での再建になるのではないかと。(照屋)

- 復興は建物をつくるだけではない。世界中のウチナーンチュにとって首里城は沖縄のシンボルとして大きなもので、もう一度復活してほしいと感じている人も多い。沖縄のシンボルといえば首里城で、文化として大切なところであることを世界中の人に認識してもらいたい。沖縄県民をはじめみんなに首里城の魅力や誇りに気づいてほしい。アイデンティティとして大事にしてほしい。(Lynn)
- 多良間島の島民でも、芸能など文化に興味がある人とそうでない人とで温度差がある。40～50代の人でも首里城に行っただけの人がいない人がいる一方で、火災後にわざわざ多良間島から見に行っただけという人もいる。教育委員会としてはキャリア教育として、沖縄の文化にふれる機会を提供することが重要だと考えている。島の人にとっては「沖縄本島の城」というイメージだが、県外へ出た場合は沖縄のシンボルとして首里城を語ることもあるだろう。なので、関わりを持たせてもらうことが重要である。離島へも情報発信を行うなど、これから復興する首里城に離島民が関わりを持って、子どもたちが身近に感じる機会を与えてほしい。(桃原)
- 久米島では、平成の復元のときに首里城の窓枠に使用した久米赤土を提供している。令和の復元でもぜひ使ってほしいという意見がある。そういう機会があれば全面的に協力したい。子どもたちが修学旅行で首里城を訪れた際に、ガイドの方が久米島の赤土が使われていると説明してくれる。首里城と関係があると知ることによって身近に感じるができる。火災により、当たり前にあるものが永遠にあるものではないと文化財担当者は強く気付かされた。あの何気ない日常が多くの人々の努力と幸運の積み重ねで営まれていると気付くこと、そのことを多くの人が共有することで、本当の再建につながると思う。久米島でも再建につながる協力をしていきたい。子どもたちへもそのことを伝えていきたい。(宮良)
- 今はZoomなどで簡単に世界とつながることができる。沖縄でのイベントをハワイでも見られるし、ハワイでのイベントに沖縄の人が同時に参加できることはとてもエキサイティングだと感じる。(Lynn)
- 多良間島も郷友会があり、もっと交流できるとよい。インターネットの活用だけでなく、多くの人に見てもらおうきっかけづくりをしていただけると、離島島民として身近に色々なことを感じるができる。(桃原)

(視聴者からの質問)

《八月踊りやハワイの沖縄フェスティバルを中継でつないで、首里城でライブビューイングするなどの展開もおもしろそうです。首里城と離島・海外をつなぐ取り組みについて、登壇者のご意見を聞きたいです》

- 離島民としてすごく嬉しいアイディア。今年はコロナ禍で八月踊りができず、子どもたちのために上演会を実施したが、来年も実施できるか不安である。多くの人に見てもらおうことが島民のモチベーションになる。また、継承という視点からも祭りが実施できない年が続くのは好ましくない。相乗効果を得られるとよい。(桃原)
- (Lynn : Q&A に直接回答) Yes, this sounds like a good idea. Now that we can do things virtually, we have a whole new range of possibilities to connect Hawaii and Okinawa. (訳 : はい、これはよい考えだと思います。技術的に可能になった今、ハワイと沖縄を結ぶうえで、新しい可能性があります。)

(座談会を振り返って・・・)

- 地域の文化や歴史を熱く語る人をみるとワクワクする。目に見えないもの、受け継がれてきたものを知れば、同じ建物でももっと魅力的に見える。質問にあったような首里城でのライブビューイングもきっかけになると思うし、目に見えないものでも熱く語る人がいれば気づきやすい。気持ちをつなげていくことが大切で、今日話をきくと、そうやっていくのではないかなと感じた。(稲福)
- 今日の会で、私の知らない首里城の文化がたくさんあると感じた。首里城を大切に思って再建したいという気持ちは一緒だと思うので、話し合いのなかでそこに気づいていけるとよい。単に再建するだけでなく、沖縄のなかで首里城をどう位置づけて再建していくかが重要になるので、先頭に立っている人だけでなく、県民と共有して、みんなにとって身近になっていくとよい。「身近」がキーワードだと感じた。(照屋)